

もっと伝えたい介護の魅力！

アクティブ福祉

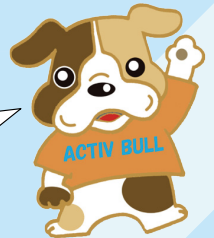
第**65**号

2026年6月発行

社会福祉法人東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



高齢協
ウェブサイト
はこちら♪



東京都高齢者福祉施設協議会
マスコット「アクティブル」

特集

シリーズ『令和8年度期中介護報酬改定と処遇改善加算・令和9年度改定に向けて』

第1回 令和8年度改定の概要とポイント

東京ケアリーダーズが行く！うわさの施設

「東京の介護ってすばらしいグランプリ2025」
最優秀賞受賞施設

●【イベント部門】「やさしさ探検隊！ふくし×ゴミ拾いで地域のヒーローになろう！」

社会福祉法人 泉陽会（東京都練馬区）

●【写真部門】「えい！やー！！」

社会福祉法人すこやか福祉会 デイサービスセンター すこやか（東京都葛飾区）

●【レシピ部門】「筑前煮まんじゅう」

社会福祉法人長寿村 大田ナーシング翔裕園（東京都大田区）

もっと伝えたい介護の魅力



第1回 令和8年度改定の概要とポイント

令和8年度期中介護報酬改定と令和9年度改定に向けて、国の議論が進んでいます。今年度の機関誌では今後4回にわたり、林 正先生の寄稿によるポイントを解説します。第1回目のテーマは「令和8年度改定の概要とポイント」です。



はやし 正 先生

●プロフィール

合同会社キャリアワークス代表 社会福祉法人吹上苑理事 社会福祉法人福信会監事
社会福祉連携推進法人WTBASE 顧問 介護コンソーシアムベトナム理事
キャリアコンサルタント 東京都介護支援専門員研修講師

●経歴

1964年群馬県出身、社会福祉法人仁育会特別養護老人ホーム青梅療育院相談員、文京福祉専門学校講師、社会福祉法人吹上苑やすらぎの家副施設長、施設長を歴任後、2023年介護医療等の専門職転職キャリアサポート、外国人採用支援、研修を行う合同会社キャリアワークスを設立。現在、東京都社会福祉協議会東京都高齢者福祉施設協議会（旧：老人福祉部会）経営検討委員会委員、事務職研修委員会委員 介護保険制度施行時より東京都社会福祉協議会東京都高齢者福祉施設協議会（旧：老人福祉部会）にて介護報酬請求事務研修を24年間実施中

●主な著書

「介護サービス加算算定手続き、ルールと必要書類集」2016年日総研出版
「ケアマネジャーになるための完全ガイド」2009年主婦の友社出版など

1 はじめに

令和7年11月22日閣議決定された「強い経済を実現する総合経済対策」の具体策である「生活の安全保障・物価高対策への対応」を進める中での一つとして「地域の生活を支える基幹産業の支援・活性化」として、令和9年度の介護報酬改定を待たず、期中改定が行われました。

改定率は処遇改善加算分+1.95%、食費の基準費用額+0.09%であり、改定率は+2.03です。

医療、介護保険は保険請求による報酬と食費等が公定価格で定められており、急速な物価上昇と他産業のような賃上げにに対し対応することが出来ないため、「医療・介護等支援パッケージ」として緊急措置を実施し、経営の改善と人材不足が厳しく他産業と比較しまだ賃金差があることや、他産業へ人材の流出を防ぐことを目的としています。

介護報酬は3年毎の改定と定められており、期中改定は前例が無い改定です。制度を持続するために3年毎の改定をしますが、国はこのフェイルセーフを自ら外す対策を実施しなければならないほど、介護業界は経営悪化と人材不足が深刻化しているということです。

2 令和8年度期中改定までの概要

令和8年度の期中改定は処遇改善加算の改定と食事基準費用額の見直しです。処遇改善加算の改定は介護報酬改定の都度行われていますが、令和6年度の改定において、一番上位の改定率が特養の加算Ⅰイでは14.0%であったのに対し、今回の期中改定では16.3%と改定率が非常に高くなっていることや、令和3年度の改定の特定処遇改善加算のようなキャリア要件、令和6年度改正ではキャリアパス要件、職場環境要件、月額賃金改定要件が求められていましたが、今回の改正ではキャリアパス要件は同じですが、生産性向上と協働化という新たな要件が新たに求められてきたことです。

更に今までは介護職員に配分することが基本でしたが、介護職員以外の従事者への賃上げ措置を実施したことは今までには無い措置です。

食事基準費用額は令和3年に1,392円/日より1,445円/日に53円の引き上げを行ってから今回の改定まで5年間据え置きでした。この間、物価は急上昇し続けていましたが、令和6年度は居住費の改定のみでした。

今回5年ぶりの改定で令和8年8月より1,545円/日と100円/日引き上げを行います。これは令和7年度介護事業経営概況調査により、食事費用に要する平均的な費用額と基準費用の差が生じている状況により、令和9年度の改定を待たず、引き上げを行うというものです。

今回の食費基準費用額の改定は待ちに待った改定と言えますが、令和7年度の介護事業実態調査は、令和5年度と令和6年度の決算内容を基に令和7年5月に行ったものであり、現在の物価上昇率からみるとかなり厳しい改定と言えます。特に令和7年より令和8年の世界の地域紛争等の影響等による物価上昇は加味されていませんので、実質経済での物価上昇率はもっと高くなっています。

介護保険法の規定では「食費の提供及び居住費に要する平均的な費用の額を勘案して定めることと」されていますが、同じく同法では「介護保険施設等における食事の提供又は居住費に要する費用の状況その他事情が著しく変動した時には、速やかにそれらの額を改定しなければならないこと」とされています。

施設運営はこの数年間物価高騰による支援や補助をしなければならないほど厳しい状態となっています。しかし、食費基準費用額改定まで5年間、著しい変動をしたと解釈されず、留保されたままになっていました。

3 処遇改善加算改定概要

令和8年6月のサービス提供分の介護報酬より加算率が改定される処遇改善加算について、厚生労働省の資料より、上位加算のⅠ、Ⅱの概要を抜粋し解説します。

概要（特養分のみ抜粋）

- ①介護職員のみならず、介護従事者を対象に、幅広く月1万円（3.3%）の賃上げ措置の実施（図表1の①の引き上げ分）
- ②生産性向上や協働化に取り組む事業者の介護職員を対象に、月7千円（2.4%）の上乗せ措置を実施（図表1の②上乗せ分）
※介護職員については最大1万9千円（6.3%）の賃上げ（定期昇給2千円込み）の措置

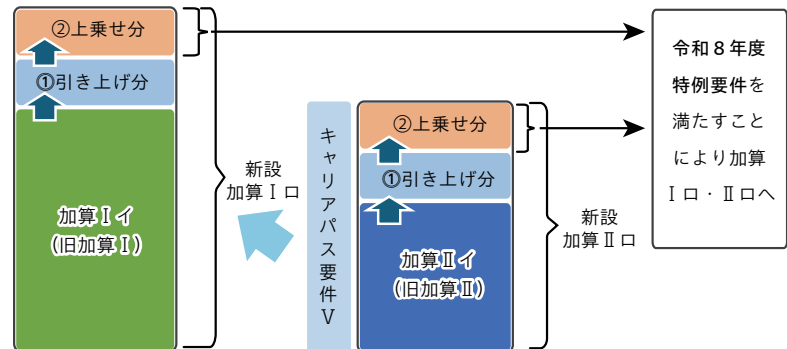
図表1の②上乗せ部分の「令和8年度特例要件」とは、特別養護老人ホームでは以下のいずれかを満たすことが必要です。

- ・生産性向上推進体制加算Ⅰ又はⅡの取得
（加算算定開始時は生産性向上推進体制加算を算定しているもしくは、実績報告提出までに、生産性向上推進体制加算Ⅰ又はⅡを算定していること）
- ・社会福祉連携推進法人に所属していること
（社会福祉連携推進認定を受けた社会福祉連携推進認定申請書）

新設の処遇改善加算Ⅱ口から新設Ⅰ口へアップする要件のキャリアパス要件Vとは、介護福祉士数総数が6割もしくは、5割以上配置しているか、サービス提供体制強化加算ⅠかⅡ、日常生活継続支援加算Ⅰ又はⅡを算定していることが要件です。

多くの施設が旧加算Ⅰを既に取得し、加算要件であるキャリアパスⅠよりVを実施しているため、新たな要件である生産性向上推進加算Ⅰ又はⅡを算定しているが、実績報告作成までに算定すればよいため、加算算定要件のハードルは低いと言えます。

図表1



4 基準費用額（食費）の見直し

令和8年8月から、基準費用額が1,445円より1,545円に100円/日引き上げられます。これは毎年食費居住費に係る費用の負担限度額認定証の更新が行われるのに合わせて行うためです。

食費の基準費用額の改定は5年間据え置かれたままであり、特に特別養護老人ホームでは負担限度額認定を受けている利用者が多く、第1段階から第3段階の方まで基準費用額であるため、食事提供経費が各施設の努力では賄いきれません。そのため、第4段階の方で利用者と施設の契約により金額を設定している方の負担額を上げる対応や食材の大幅見直しを行うことにより、季節に合わせた楽しみのある食事提供のための食材を使う機会が減少することや、本来利用者の状態に合わせて使いたい価格の高い高機能栄養補助食品等の使用をできるだけ控える等、食費の基準費用の見直しは利用者に対する食事の質を担保する上で非常に重要な要素です。

この数年、食材料費の高騰と人件費の高騰により、セントラルキッチンによる食事提供をする施設が増えつつあります。これは介護施設での食事提供部門の生産性向上も目的としているため、今後とも多くなると考えられます。

図表2が令和8年8月からの負担限度額別の改定内容です。第1、第2段階の負担限度額の変更はありませんが、第3段階①が、650円より680円と30円/日、第3段階②が1,360円より1,420円と60円/日引き上げられます。

図表2

基準費用額 （日額）	負担限度額（日額）				短期入所は【 】で示しています
	第1段階	第2段階	第3段階①	第3段階②	
1,545円	300円 【300円】	390円 【600円】	680円 【1,030円】	1,420円 【1,360円】	

5 令和8年度介護報酬改定の課題

令和8年度の改定では処遇改善加算の引き上げが行われ、介護職員以外の職員の処遇改善も行われますが、月1万円の賃上げに留まり、介護職員は最大1.9万円（2千円定期昇給分を含む）の賃上げとなります。

しかし、今までも処遇改善加算は介護職員を中心に支給されていたため、介護職員とその他職員の給与の差が広がっており、法人内や施設内でのキャリアパスによる介護職以外の相談員や事務、総合職、管理職への登用を望まない事も多くなっています。

特に介護職より介護支援専門員へのキャリアアップを希望する方が更に減少すると考えられ、在宅もそうですが、施設介護支援専門員不足を更に加速する要因になる可能性があります。

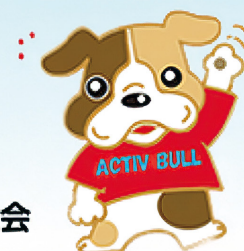
「強い経済を実現する総合経済対策」において「介護分野の職員の処遇改善については（中略）他職種と遜色ない処遇改善に向けて、令和8年度の改定において、必要な対応を行う」とし、令和9年度の改定を待たずに、期中改定を実施しましたので、令和9年度改定でも介護職員以外の職員の更なる処遇改善策が行われるかが課題です。

Join us! イベントのご案内

アクティブ福祉 in 東京 '26

第21回
高齢者福祉実践・研究大会

Active Fukushi



2026年9月29日(火)に「アクティブ福祉 in 東京 '26」が開催されます。

2006年からスタートした「アクティブ福祉 in 東京」は、今回で21回目となる高齢者福祉実践・研究大会です。この大会は、高齢者福祉に関する施設・事業所で働いている職員の皆様はもちろん、高齢者福祉を学んでいる学生の皆様や、関心のある皆様など、どなたでもご参加いただけます。

今年度のスローガンは「未来（ミライ）～変わる時代に変わらぬ想い」。

大会を通じて、時代が変わっても変わらない想い等についてお考えいただき、何かヒントを持ち帰っていただける機会とするためにも、興味を持っていた方は是非ともご参加ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日時：2026年9月29日（火）

10：00～15：50

場所：京王プラザホテル4階・5階

* 詳細や申込は大会ウェブサイトから→



ステージイベント
篠原信一さん 登場！



経歴

1999年世界柔道選手権 100kg 超級 金
世界柔道選手権 無差別級 金
2000年シドニー五輪100kg 超級 銀

「第19回アクティブ福祉 in 東京 '24合同大会」の様子



東京の介護ってすばらしいグランプリ2025 結果発表

多様な場面にスポットを当て、介護の魅力を広くPRする年に一度のグランプリ。

その名も「東京の介護ってすばらしいグランプリ」！

今回は2025年の最優秀受賞作品を紹介します。たくさんのご応募ありがとうございました！

多様な介護の現場から「笑顔」を届ける、年に一度のグランプリ

東京の介護って すばらしい グランプリ 2025



応募期間 2025年9月15日(祝)～2025年11月11日(火)

【イベント部門】

「やさしさ探検隊！ ふくし×ゴミ拾い で地域のヒーロー になろう！」

社会福祉法人泉陽会
人材対策室／
中島 千幸氏



審査員のコメント：福祉教育と地域貢献を融合させ、子どもの視点から介護を「ヒーロー」として再定義することで、次世代に向けた介護イメージの改善に直接寄与しています。

【写真部門】

「えい！やー！！」

社会福祉法人
すこやか福祉会
デイサービスセンター
すこやか／
伊坂 光弘氏



審査員のコメント：タイトル通り「えい！やー！！」と勢いが伝わる写真です。スイカ割りを思う存分楽しんでいる少年さも感じました。

【コラム部門】

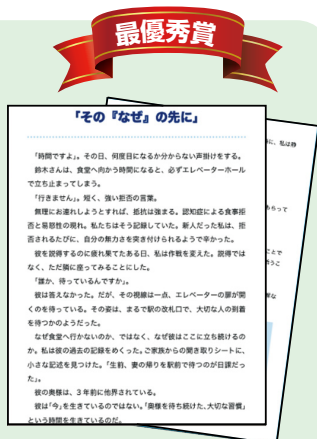
「その『なぜ』の先に」

山本 祐貴氏

審査員のコメント：

『「今」という現実を引き戻すことではない』は大切な視点であり、鈴木さんの行動を否定せずに「奥様のお迎え」と声をかけた筆者に、認知症ケアの神髄を見せていただきました。

何を大切に生きてきたのか等「その人を知ること」が認知症ケアの原点。「なぜ」を解き明かしたのは、家族ともきちんと対話が出来ていたからだとも感じました。



【レシピ部門】

「筑前煮まんじゅう」

社会福祉法人長寿村
介護老人保健施設
大田ナーシングホーム
翔裕園／正者 成美氏



審査員のコメント：お料理が目の前に出てきた時のワクワク感を想像し、幸せな気持ちになりました。このメニューのおかげで、家族の笑顔が増えますね！

受賞された3つの社会福祉法人（イベント部門、写真部門、レシピ部門）を次ページ以降で紹介していますので、ぜひご覧ください。

また、今年度も「東京の介護ってすばらしいグランプリ2026」を開催します。

詳細は、9月下旬にご案内予定です。たくさんのご応募お待ちしておりますので、奮ってご応募ください！

高齢協ホームページ内「グランプリ」ページ▶

<https://www.tcs.wv.ac.jp/bukai/kourei/index.html>



グランプリ特設サイト▶

<http://koureikyo.com/>



東京ケアリーダーズが行く！

うわさの施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約1200施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験をもつ施設を紹介するコーナー。毎回「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが訪問し、お話を伺います。

今回は、高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信する「東京の介護ってすばらしいグランプリ（以下、東すば）2025」イベント部門の最優秀賞を獲得した泉陽会の中島千幸さんにお話を伺いました。

2025年開催「東京の介護ってすばらしいグランプリ2025」『イベント部門』最優秀賞

—— イベントのコンセプトをお聞かせください。

地域の子どもの町で高齢者や障害者と出会ったときの声のかけ方や助け方を知ってほしいことと、介護業界の人材不足問題に対し小学生のうちから福祉にふれる機会を作り、将来選ばれる仕事にするきっかけを作ることの2つです。



〈取材の様子〉
右から中島千幸さん、
田名部周悠さん（東京ケアリーダーズ）

—— イベントを実施するまでに大変だったことはありますか。

小学生のイベントへの集客は難しく、今も課題の一つです。近隣の小学校の校長先生に趣旨を説明してチラシを配ってもらい、職員の知り合いの子どもに参加してもらう、近隣の公園で遊んでいる子どもに直接声掛けするなどをしています。

—— 今後、イベントをどのように発展させていきますか。

法人内の未実施施設への水平展開と、継続による認知度向上を図り地域に根付いたイベントに育てることが目標です。今後、より大きなイベントにできれば複数グループでの開催およびグループリーダーの育成に取り組みたいと思います。

—— 施設内外との連携はどのようにされていますか。

車いすの介助方法は介護士、白杖や高齢者体験機器の使い方は包括等それぞれの強みを生かしています。外部との連携では、理事長が町会長をしているので、町会でのチラシ配布やボランティア協力も頂いています。

—— イベント参加者からの声はどのようなものがありましたか。

子どもからは楽しかった、車いすは道がガタガタして大変だった等のコメントを頂けありがたかったです。保護者からも、目が見えないと人が横を通るだけで怖いと感じる、街で障害者を見かけたら手伝おうと思うなどの感想を頂きました。

—— 運営に関わった職員の声はいかがでしたか。

子どもに車いす操作や声掛けをイベントで学んでもらえたことで、自分たちが大事な仕事をしていると再認識できたという声がありました。

—— イベントを通じて施設が地域に身近になり、気軽にふらっと立ち寄れる場所になるといいですね。他にはどんなイベントを開催していますか？

光陽苑という施設では、地域向けに「防災チャリティカレーイベント」でアルファ米カレーの試食会、能登地震ボランティア体験者の講演、AED操作方法講習、起震車での地震体験を行っています。頂いている100円の食費は全額募金しています。

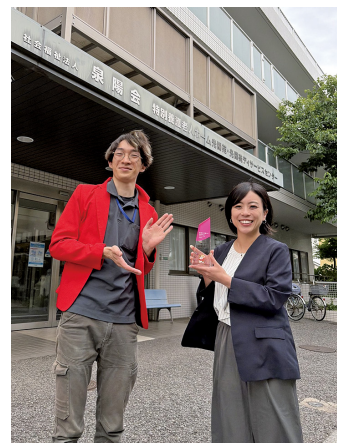
—— イベントを企画する際、心がけていることはありますか。

主催側の独りよがりの企画にしないよう、対象の方に本当に求められている企画は何かを常に考えています。また、イベントで楽しく盛り上げられるところまでイメージできれば、大変な準備期間も乗り切れると思います。

—— 今後グランプリに応募される方へアドバイスをお願いします。

各施設での素晴らしいイベントをぜひ発信していただければと思います。それを積み重ね、介護業界全体のイメージアップにつなげていきましょう。

—— 福祉って地域の身近にあるべきものだと感じました。私の施設も気軽に立ち寄れるような施設にできればと思います。本日はありがとうございました。



〈施設前で〉
右から中島千幸さん、
田名部周悠さん（東京ケアリーダーズ）

社会福祉法人泉陽会 人材対策室

取材先：中島千幸 氏

インタビュアー：東京ケアリーダーズ 田名部周悠 氏（うきま幸朋苑）

所在地：〒178-0065 東京都練馬区西大泉 5-21-2 電話：03-6682-3760

記録・編集：東京新聞 木下 聡文

社会福祉法人泉陽会 ホームページ URL：https://senyoukai.or.jp



泉陽会ホームページ

今回は、高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信する「東京の介護ってすばらしいグランプリ（以下、東すば）2025」写真部門の最優秀賞を獲得した**デイサービスセンターすこやか**の**伊坂光弘さん**と**中村寛史さん**にお話を伺いました。

2025年開催「東京の介護ってすばらしいグランプリ2025」『写真部門』最優秀賞

—— グランプリに応募したきっかけをお聞かせください。

中村氏

昨年法人で広報誌に掲載するための「夏フォトコンテスト」を実施しており、ランキング上位の作品を東すばに応募しました。コンテストを通じ、現場の職員から「良い写真を撮ろう!」というモチベーションをコンテストで引き出せたと感じます。

—— 受賞作品はどのようなシチュエーションでしたか？

伊坂氏

例年行う納涼祭の一場面です。本年は童心に帰って楽しむことをコンセプトに、焼きそばやたこ焼きなどの出店、射的、金魚すくい、スイカ割りなどのコーナーを設けました。

—— イベントや日常の写真はどなたが撮影されていますか？

伊坂氏

私たちが予測もできない素敵な動きをご利用者はされるので、その瞬間その瞬間で対応できる職員が撮影しています。

—— 写真を撮る際に意識していることはありますか。

伊坂氏

職員のご利用者への好意が写真に現れると思いますので、日常の関係性を大切にしています。当施設では離職率が低くベテランが多くおり、ご利用者と長くお付き合いすることで関係性が深まっていると思います。

—— 離職率を低くするためにどのようなこと心がけていますか。

伊坂氏

プライベートを犠牲にすると続かないと思うので、理由を問わず休暇の希望を極力叶えられるようにしています。



第一回すこやか夏フォトコンテストの写真

—— 日常でのお写真はどのような場面で撮影されることが多いですか？

伊坂氏

ご利用者が自身の配膳を行う姿など生活機能を表現できるような写真を撮ります。また、当施設ではフットケアを重点的に行っていますが、マッサージ前後の左右の足の状態の違いなども記録しています。

—— 写真はどのように活用されていますか。

伊坂氏

例えば胃ろうや褥瘡の措置方法やその経過など、担当者会議や職員間でのケア情報の共有に使用しています。施設から地域向けのお便りでも、雰囲気伝えるために写真を数多く使用します。ご家族とお話する機会に紹介したり、連絡帳に行事のお弁当の写真を貼り付けたりするなど、個別のお便りのようにも活用しています。

—— 今後、写真を通じてどのようなことを世間に伝えていきたいですか。

伊坂氏

東すばのような企画は、介護現場を知らない方の目にも届くありがたい機会です。特に写真は若者が興味を示しやすいツールですので、ご利用者の笑顔や職員のモチベーションを表現し、ポジティブな印象を届けていきたいと思っています。

—— 今後、東すば写真部門に応募される方へのアドバイスをお願いします。

伊坂氏

今回、私たちが日常の1枚とを感じる写真が、外部の方から見て素晴らしいと評価されました。どんな場面でも撮影してそれを発信すれば、外からの「こんなにすごいことをやっているんだ」という評価になりえますし、自信にもつながり介護の魅力の発信になると思いますので、ぜひ積極的に応募してください。

—— 職員が長く勤め続けられる素晴らしい施設だと感じました。高い定着率によって日々のケアや心にゆとりが生まれ、日常の一こまを写真に記録できるのだと感じました。私の施設でも職員が働きやすい環境を整えていきたいと思っています。本日はありがとうございました。



〈施設内の写真〉

右から伊坂光弘さん、中村寛史さん
長島利恵さん（マイライフ徳丸）



〈取材の様子〉

右から伊坂光弘さん、中村寛史さん
長島利恵さん（マイライフ徳丸）

社会福祉法人すこやか福祉会 デイサービスセンターすこやか

取材先：センター長・介護福祉士

伊坂光弘氏
なかむらひろし

本部人財採用・教育・広報室長 中村寛史氏

インタビュアー：広報戦略推進委員会（マイライフ徳丸） 長島利恵氏

所在地：〒125-0062 東京都葛飾区青戸 3-13-19 電話：03-5813-9251

記録・編集：東京新聞 木下 聡文

社会福祉法人すこやか福祉会 ホームページ URL：http://www.sukoyaka-fu.or.jp



すこやか福祉会
ホームページ

今回は、高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信する「東京の介護ってすばらしいグランプリ（以下、東すば）2025」レシピ部門の最優秀賞を獲得した**大田ナーシングホーム翔裕園さんの正者成美さん、住岡仁子さん、泉沢周佑さん**にお話を伺いました。

2025年開催「東京の介護ってすばらしいグランプリ2025」『レシピ部門』最優秀賞

——受賞作品のレシピのコンセプトをお聞かせください。

募集テーマにある「介護現場やご家庭で笑顔が生まれた」を意識し、高齢者が食べやすいもので、さらに家族全員が同じものを食べられるレシピにしたいと考え、手軽に作れて日常にすぐに取り入れられるものにしました。



〈取材の様子〉

右から住岡仁子さん、泉沢周佑さん、正者成美さん
平井洋子さん（品川区立戸越台特別養護老人ホーム）

——受賞したレシピは自宅の包丁とまな板で、日常の食事をアレンジして作れるのがいいですね。今回のレシピ作成の経緯をお聞かせください。

レシピを考えていた時期は里芋が旬で自宅で筑前煮がブームでしたが、お代わりの際に子どもは肉ばかりをとり、根野菜が残りがちでした。施設でも残りやすい食材ですので、これを使う方法を考えてみました。里芋をマッシュしたり、根野菜を刻んだり、とろみをつけたりすると食べやすくなったので、このアイデアをベースにしてブラッシュアップしました。

——日ごろから食べやすさや残りやすい食材の活用を考えているからこそこのレシピですね。高齢者の健康面への配慮はありますか。

食べ物の組み合わせで少量でも栄養価の高いものを選ぶ工夫をしています。普段の食事でも栄養面を考え、豚肉の照り焼きに、ごまを加えるなど、複数の食材を組み合わせるようにしています。

——今回のレシピのほか、イベント食で特色のあるものはありますか。

薬膳料理です。数年前に法人の栄養士が集まって薬膳料理を学ぶ機会があり、それ以来法人内で提供しようという方針になり、

食材の持っている性質や食べ合わせを考えながら提供しています。

——食事提供では他職種の方とどのように連携されていますか。

ケアワーカーとの伝達漏れは摂取量の変化など、気付けない問題に影響するので、常に情報を共有しています。ミールラウンドで直接聞くこともあります。ご利用者は私たち栄養士やケアワーカーに遠慮して意見を言えない方もいますが、リハビリスタッフには食事と関係ない場面で1対1で向き合うからか食事に関する本音を言ってくれることがありますので、そこから情報をもらうこともあります。

——今後、グランプリに応募される施設へのアドバイスをお願いします。

テーマを把握してコンセプトをしっかりと決めることが第一です。また、意気込んで作るものは真似しづらいので、手軽に真似できることも大事だと思います。

——今後の目標をお聞かせください。

「食を通じて笑顔にさせたい、幸せにしたい」が私のテーマです。ご利用者の声を大切にしたい気持ちを持ち続けられるような献立や、家庭での介護の参考になるような、日常に取り入れやすいレシピや献立を考えていきます。

——ただ食べるというだけでなく、そこからの喜びや驚き、コミュニケーションや団らんを常に意識されていることに感銘を受けました。本日はありがとうございました。



〈施設内の写真〉

右から泉沢周佑さん、住岡仁子さん、正者成美さん
平井洋子さん（品川区立戸越台特別養護老人ホーム）

*「東京ケアリーダーズが行く！うわさの施設」の各記事のより詳しい内容は、高齢協ホームページの「機関誌アクティブ福祉デジタル」でお読みいただけます。

<https://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/activefukushi/digital/index.html>

社会福祉法人長寿村 大田ナーシングホーム翔裕園

取材先：栄養課 管理栄養士 ^{しょうじやなるみ} 正者成美氏

副施設長・看護師 ^{すみおかきみこ} 住岡仁子氏

大田ケアコミュニティ入所部門統括マネージャー ^{いずみさわしゅうすけ} 泉沢周佑氏

インタビュアー：広報戦略推進委員会（品川区立戸越台特別養護老人ホーム） 平井洋子氏

所在地：〒144-0046 東京都大田区東六郷1-12-11 電話：03-3736-1240

記録・編集：東京新聞 木下 聡文

社会福祉法人 長寿村ホームページ URL：<https://chojumura.or.jp/about/>



長寿村ホームページ

法定動画研修 配信のお知らせ

高齢協ホームページにて、会員限定 法定研修動画を配信しています！

東京都高齢者福祉施設協議会では、会員に向けて、介護サービス情報公表制度や介護保険法等で必須とされる研修を配信しています。動画 1 本あたり 15 分程度と空いた時間に学ぶことができます。 新任職員への研修や中堅職員の振り返りにぜひご活用ください。



▲動画視聴はこちらから

< 配信内容 >

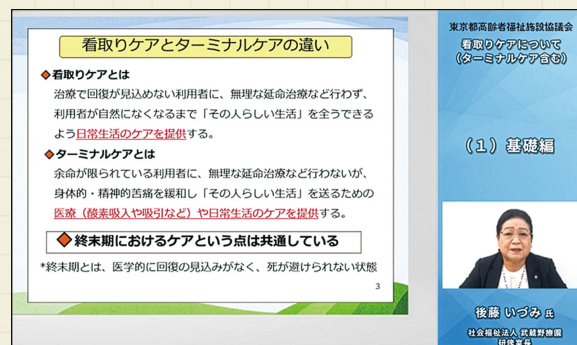
■看取りケアについて（ターミナルケア含む）

講師：社会福祉法人 武蔵野療園

研修室長 後藤 いづみ氏

構成：基礎編、基礎編 2、実践編、まとめ・FAQ 前編、
まとめ・FAQ 後編

基礎編、実践編、精神的ケア、家族との関わり
看取りケアとターミナルケアの違いやポイント、精神的ケアの目的、看取りケアにおける連携のポイント、家族への支援等について学ぶことができます。

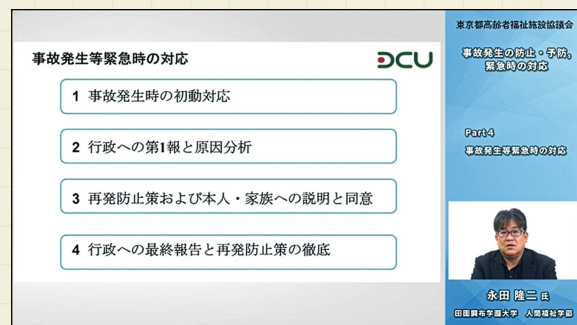


■事故発生の防止・予防、緊急時の対応

講師：田園調布学園大学 人間福祉学部社会福祉学科
永田 隆二 准教授

構成：事故発生の防止・予防の必要性、事故発生の防止策（施設評価）、事故発生の防止策（利用者評価）、事故発生等緊急時の対応

リスクマネジメントの必要性、事故発生の（再発）防止策、事故発生緊急時の対応、行政への報告等について学ぶことができます。

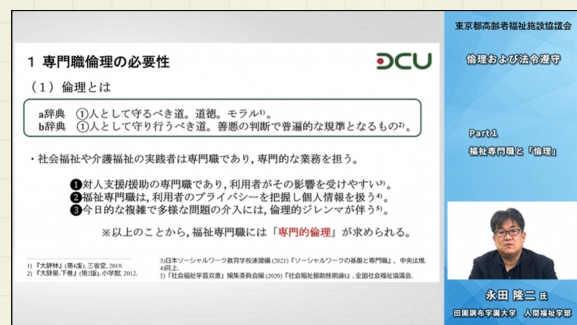


■倫理および法令遵守

講師：田園調布学園大学 人間福祉学部社会福祉学科
永田 隆二 准教授

構成：福祉専門職と「倫理」、倫理に関する「基礎演習」、高齢者福祉関係のコンプライアンス、倫理・コンプライアンスに関する「実践演習」

専門職倫理の必要性、尊厳の保持や自立支援、法令遵守のポイント等を学ぶことができます。また、演習を通じて倫理や法令遵守についての理解を深めることができます。



ほかにも、介護サービス情報公表制度や介護保険法等で必須とされる研修について、動画を公開しています。また、今後も随時新しい動画を公開していきますので、ぜひともご視聴ください！

【現在公開しているその他の研修】

- ・個人情報保護法ならびにプライバシー保護について
- ・認知症の理解とそのケアについて
- ・身体的拘束等の排除および高齢者虐待防止について

【令和 8 年度公開予定の研修】

BCP に関する研修、褥瘡対策等に関する研修、従業者に対する医療に関する研修 等

東京都高齢者福祉施設協議会(高齢協)

公式SNSのご案内



高齢協の活動や会員施設・事業所の情報、お役立ち情報などを発信しています。
フォロー、いいね、チャンネル登録よろしくお願いします！！



YouTube

施設種別ごとの紹介や「東京の介護ってすばらしいグランプリ」の受賞作品などを紹介しています！



Facebook

会員施設の情報や委員会等の報告を掲載中！

高齢協HP、
各種SNS



Instagram

会員施設の身の回りのこと、会員施設で働く職員の日常などの写真をアップしています📷



X(旧Twitter)

朝礼で使える今日の記念日、施設のごはん紹介、高齢協に関するお知らせなどを発信中🐾

高齢協 X 企画『#うちのごはん自慢』作品募集中！

皆さんの施設・事業所の自慢のごはん、メニューを教えてください。



例：「東京都にある〇〇ホームのお昼ごはん
メニューは『筍御飯』『ほうれん草のおひたし』
『鯖の西京焼き』ご利用者さんに大人気です！」



『#うちのごはん自慢』投稿フォームはこちら👉



＜問合せ先＞ 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL：03-3268-7172 FAX：03-3268-0635 E-Mail：kourei@tcs.w.tvac.or.jp

専門委員会リレートーク

第32回 利用者支援検討委員会

利用者支援検討委員会 委員長

社会福祉法人さくらぎ会

特別養護老人ホーム こもれびの郷 施設長

ふじた かずひろ
藤田 和弘

■ 事業計画に基づく取り組み

東京都高齢者福祉施設協議会の令和7年度事業計画における最重点目標である【利用者の人権や尊厳を守り、虐待や不適切ケアを未然に防ぎ、質の高いサービス提供の実現のため、虐待の芽チェックリスト等を活用した適切な介護に向けたセルフチェックを実施し、その結果を踏まえた必要な取り組みを行う】ことを踏まえ、利用者支援検討委員会では、利用者の尊厳を守り、より良い支援のあり方をテーマに活動してまいりました。

■ 調査の実施と報告書作成

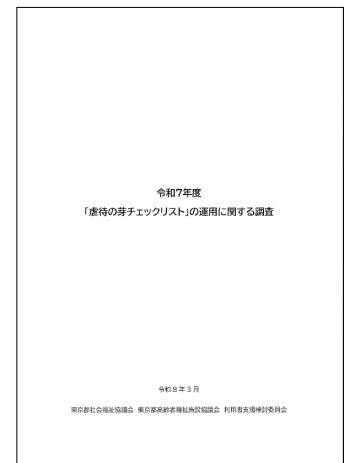
令和7年度は、各施設におけるチェックリスト集計後の取り組みや運用方法について調査を実施し、その結果を基に全61ページの報告書を作成いたしました。各施設の実践を共有し、今後の取り組みの参考となることを期待しております。

■ 研修の実施（アンガーマネジメント）

調査結果を受け、アンガーマネジメント研修を求める声を踏まえ、ストレスケアに関する動画配信研修を企画しました。ベラガイア17人材開発総合研究所代表 梅沢佳裕氏を講師に迎え、令和8年3月23日から動画配信を開始し、新任・中堅職員の研修等への活用を図っています。

■ 今後の取り組み（グッドプラクティス＝利用者の笑顔と願いを叶える支援）

令和8年度は、虐待防止に加え、「利用者の笑顔と願いを叶える支援（グッドプラクティス）」の事例収集と冊子化を予定しています。職員の意識向上やケアの質の振り返り、研修資料としての活用を目的としています。



虐待の芽チェックリスト
調査報告書 表紙



アンガーマネジメント
配信案内



「人生の最期を見る」ことの尊さ

社会福祉法人江東園 常務理事
養護老人ホーム江東園 施設長
すぎ ゆういち
杉 雄一



介護職員の仕事は、利用される高齢者の人生に、専門家として家族同然の距離で寄り添い支援していくことです。さらに、個人の人生の最期の時間においては、ご家族以上に近いところに関わることもある仕事だと思います。養護老人ホームも例外ではなく、高齢者の自立支援を行う上で、同じように深い関わりが求められる仕事です。

一般的に介護の仕事は体力的にきつく、「大変な仕事」というイメージがつきがちですが、実際のところその通りで大変です。しかし、ではなぜこの大変な介護の仕事を続けられるのか。その“やりがい”について職員と考えてみました。見えてきたのは、「ありがとうと言われたい」といったありきたりな気持ちの報酬や、「稼ぐための仕事」という理由ではありませんでした。見えてきたのは、**赤の他人の人生に関わることに對しての、“ありがたさ”**でした。

職員一人の人生の中で、これほど多くの養護老人ホーム利用者の多種多様で一筋縄ではいかない人生に関わることは、まずありません。そうした多くの大変な人生を少しでも理解しながら、目の前の課題を一緒に解決していくというリアルな体験は、他では絶対できないものです。

「借金が億を超えていた」「警察に発見されるまで、何もわからないまま親の遺体と暗い部屋で過ごしていた」「夫と息子から虐待を受けていた」など、耳を疑うような出来事が、実際の人生には起こっている。利用者様と時間を過ごす中で、その人が社会の中でどのように生きてきたのか、そしてなぜ今の状態に至っているのかが、少しずつ見えてきます。

人生の最期が近づくにつれ、課題が少しでも解決に向かうことは、介護職員・相談員の腕の見せ所でもあり、一緒に解決できたときの喜びは、本人以上に大きいものです。大変だった人生の最期を専門職として看取ることは、そこにいない家族以上の経験を積ませてもらっているのではないかと思います。

そんな大変だった人生との出会いに“ありがたさ”を感じられるのが介護職員であると思う。**介護って本当に素晴らしい。**



養護老人ホーム江東園▶
ホームページ





学生と高齢者が共に暮らす場所から 生まれる“新しい介護のかたち”

社会福祉法人 武蔵野
武蔵野市桜堤ケアハウス
むらた まなぶ
施設長 村田 学

■ 武蔵野のまちに根ざした温かい暮らしの拠点

桜堤ケアハウスは、平成4年に設立された社会福祉法人武蔵野が武蔵野市からの委託を受けて運営する自立型高齢者施設です。平成8年には公益財団法人信陽舎の学生寮と同じ建物内に開設され、学生と高齢者が日常的に交流しながら暮らす全国的にも珍しい“合築型”の施設として発展してきました。世代を超えた自然な関わりが生まれる環境は、入居者の生活の張りや安心感につながり、学生にとっても福祉への理解を深める貴重な機会となっています。

■ 平時から備える“災害に強い仕組みづくり”

当施設では「平時から備える」ことを重視し、災害に強い仕組みづくりを継続しています。年2回の居室点検では、家具の転倒防止や避難動線の確保、漏電防止などを確認し、入居者が安全に避難できる環境を整えています。さらに学生寮と防災協定を結び、年間5回（日中2回・夜間3回）の避難訓練を実施。特に夜間は警備員1名体制となるため、学生が避難誘導を担う体制は大きな支えとなっています。居室ドアに貼られた※「歩・眼・耳」などのマークを活用し、身体状況に応じた支援ができる点も特徴です。備蓄品は各階に分散配置し、防災委員が月1回ローリングストックを行うことで、常に新しい状態を保っています。



誘導マーク

■ 地域に開かれたケアハウスとしての多彩な交流活動

地域に開かれた施設としての取り組みも積極的に行っています。地域イベントでの出店や、老人クラブのお祝い会に合わせた「スマイル弁当」の提供、小中学生向けの有償学習教室の会場提供など、多世代が自然に集まる場づくりを進めています。さらに近隣施設や福祉団体と協働し「ウェルフェア・フェスティバル in 桜堤」を開催するなど、地域全体で福祉を支えるネットワークづくりにも力を入れています。



イベント販売の様子



ウェルフェア・フェスティバル
ちらし

こうした取り組みを通じて、私たちは地域共生社会の実現に向けた実践を積み重ねてきました。これからも「地域になくてはならない施設」であり続けるために、地域と共に歩むケアハウスとしての役割を果たしていきます。

※「歩・眼・耳」は「歩＝歩行支援」「眼＝視覚支援」「耳＝聴覚支援」の意味。

武蔵野市桜堤ケアハウス▶
ホームページ





地域の力で高齢者の生き甲斐を支えよう！



社会福祉法人聖母会
新宿区落合第一高齢者総合相談センター
所長 うえき 植木 とよみ 豊実

■ こんにちは、地域包括支援センターです

私たち地域包括支援センターは、地域社会の中核的な相談機関として、介護や生活全般にわたる相談を日々お受けしています。その傍ら、地域づくりも積極的に推進しており、今回はその特徴的な取り組みを一部ご紹介いたします。

■ 新人ケアマネジャーオリエンテーション

元々この事業は、地域包括支援センターの敷居を低くして、新人ケアマネジャーさんが気兼ねなく相談できるようにとの願いで始めたものです。内容としては、新宿区介護保険外サービスの留意点などを説明、その他ケアマネジャーさん同士の交流で構成しています。「ケアマネジャー支援の先には高齢者の自立支援がある」という信念で取り組んでおり、平成21年度から継続されている事業です。

■ 落一おむつサポートネット

当事業所は介護施設に併設ということもあり、以前から地域で余ったおむつが時折寄付されてきました。従来は介護事業所などに引き取ってもらっていましたが、これを地域で循環できないかと考え、私たちが地域の中継拠点となり、必要な方々に再分配する仕組みをつくりました。今は区内全域からお問い合わせがあり、将来的には地域の力で住民主体型サービスへの発展に期待がかかる取り組みです。

■ 若い世代の参画が課題

私たちの住む落合第一地区は住宅街となり、地域支え合いの取り組みにあたり、日中お勤めの若い世代の参画は難しい現状があります。そのため、少しずつですが、子どもたちへの働き掛けにも着目し、区社協と連携し小学校に出向いたり、地域イベントで親子向けのブースを企画したりと、子ども世代から認知症や体の不自由さを学び、互いに支え合う将来の地域力に繋げていこうと奮闘中です。

■ 地域に愛される相談機関を目指して

今日の社会福祉を築いた礎は「博愛の精神」です。私たちの仕事は、高齢者に愛をもって接し、高齢期という人生の最終ステージに立ち会うことです。これは大変意義深いことではないでしょうか。今後も地域に愛される相談機関を目指して、職員一同、邁進してまいります。



新宿区落合第一高齢者総合相談センター▶
ホームページ





生活相談員研修委員会の取り組み

生活相談員研修委員会 代表幹事

社会福祉法人ほうえい会 特別養護老人ホーム 栄光の杜

生活相談員 ^{きのした} 木下 ^{あつし} 淳

■ ご挨拶

本年度より、生活相談員研修委員会（以下、相談員研）の代表幹事を務めることとなりました、特別養護老人ホーム栄光の杜の木下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

これまで地域ブロック幹事として委員会活動に携わる中で、このたび代表幹事をご推薦いただきました。光栄に感じると同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

生活相談員に求められる役割は、施設運営・地域連携・多職種協働・家族支援など、ますます広がりを見せています。本来のソーシャルワークの専門性に加え、柔軟な調整力や実務的な対応力など、多面的な力が求められる時代となった今、「今、必要とされる学び」をタイムリーに届けるとともに、互いに支え合い、高め合える仲間づくりをすすめることが、相談員研の使命と考えています。

■ 生活相談員研修委員会 全体会について

3月に開催した全体会（相談員フェス）には、多くの皆様、そして学生の皆様にもご参加いただきました。基調講演に加え、6施設による実践発表・多職種シンポジウム・グループワークと、「学び・活力・交流」をキーワードに構成し、参加者同士が刺激し合い、「やっぱりこの仕事はいい」と感じられる場となりました。ご参加・ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



多職種連携シンポジウムの様子

■ 今年度の活動について

今年度も、ソーシャルワークアカデミー・リスクマネジメント・ソーシャルワーク・サービスマナー等の研修会や各地域ブロックの活動を通じ、皆様の実践につながる機会を提供してまいります。

生活相談員は、人と人、地域と施設、想いと支援をつなぐ専門職です。これからの福祉現場を切り拓く力として、皆様とともにその価値をさらに高めていければ幸いです。

活動にご興味のある方は、ぜひお気軽にお声かけください。多くの皆様との出会いとつながりを、心より楽しみにしております。

「食は命なり。心豊かな毎日を支えるお食事を」

特別養護老人ホーム 日の出紫苑 管理栄養士

おぐち みゆき
小口 美幸

特別養護老人ホーム「日の出紫苑」で管理栄養士として勤務し、早いもので十数年が経ちました。日々の業務の中で、ご利用者様の食の支援に携わせていただいておりますが、月日を重ねるほどに「食べることの大切さ」を身に染みて実感しています。

以前、あるご利用者様が私にこう仰ってくださいました。

「食べることは生きること。食は命なり。」この言葉は今も私の心に深く刻まれています。まさに食べることは、単なる栄養摂取ではなく、生きる力そのものに直結しているのだと教えられました。

だからこそ、日々の生活の中で、「食べる楽しみ」を心から味わっていただきたいと考え、当施設では毎月の行事食に加え、目の前で調理する「おやつ屋台」や、職員と一緒に料理を楽しむ「クッキング教室」などを開催しています。ジュージューと焼ける音や香ばしい香りが広がると、皆様の表情がパッと明るくなります。そんな五感を刺激する体験こそが、食欲や生きる意欲を引き出すきっかけになると信じています。

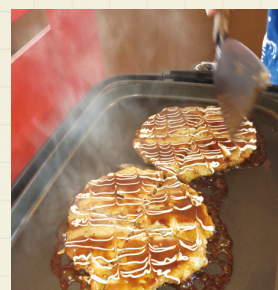
「おいしいものを食べたい！」という、人としてのシンプルな気持ちを満たし、心豊かな毎日を過ごしていただけるよう、これからも職員一同、一層努力を続けてまいります。



行事食（端午の節句）



おやつ屋台（焼きそば）



おやつ屋台（お好み焼き）

「読者モニターからのご意見」（一部抜粋）64号

- 当施設で導入していないメーカーのICT機器を紹介されていたため、導入前後の様子がとても参考になりました。（生産性向上の取り組み）
- アクティブ福祉で受賞された内容が対談形式でわかりやすかったです。（うわさの施設）
- 中間層の研修機会が少ない為、中堅職員スキルアップ研修は続けていただきたいと思いました。（職員研修委員会トピックス）
- 避けて通れない、避けて通らない！！外国人採用の話題。大変参考になりました。力強い文章にも勇気をもらいました。（外国人採用）
- 写真に写っている方々の説明があると良いと思いました。（ケアリーダーズ活動紹介）
- 下半分が文章のため、文中に小見出しや太字があると良いと感じた。（養護分科会トピックス）

▶いただいたご意見はよりよい機関誌発行のために活かしてまいります。

読者アンケートはこちら▶



編集後記

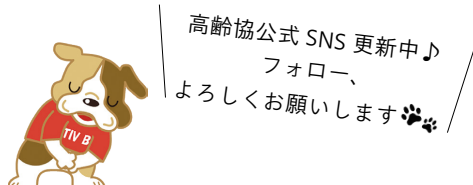
アクティブ福祉第65号をお読みいただき、ありがとうございます。

2025年に開催された「東京の介護ってすばらしいグランプリ」の特集はいかがでしたか。年々、多くの方々から応募が寄せられるこのグランプリは、より多くの方々に介護の現場の魅力を発信し、介護業界の「笑顔」と「感動」を届ける機会として広がりを見せています。安心できる介護業界、誰もが働きたいと思える介護業界となることを目指して、SNSを含めた様々な情報の発信を高齢協とともに実施して参ります。

今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

社会福祉法人 響会
特別養護老人ホーム 好日苑

施設長 杉原 憲彦



Facebook



Instagram



高齢協公式
@TokyoKourei



高齢協会長
@koureikyo



東社協
東京都高齢者
福祉施設協議会

